



東小だより

学校だより 6月号
令和6年5月31日
昭島市立東小学校
校長 鈴木 正樹

継続することの大切さ

校長 鈴木 正樹

6月に入り1学期も半分が終わろうとしています。毎月の月末の全校朝会では、子供たちに今年度各自が立てた目標やめあてについて、その月の振り返りをするように話をしています。その際の子供たちの反応や表情からは、「めあてや目標に向けて頑張っているからこれからも続けていこう。」「まだ、十分ではないのでこれから頑張ろう。」とたくさんの子供たちから意欲が伝わってきます。日常の学校生活の中でも、継続して頑張っている子供たちの姿をたくさん見ることができます。2か月間継続して努力したことが、子供たちの成長や自信につながっています。我々教員が、授業の際にしっかりと振り返りを行い、成果や課題を把握し、継続したり、改善したりして次の授業のつなげることが大切なのも同様だと言えます。

以前勤務していた学校で、「アテネパラリンピック 男子マラソン 金メダリスト」である高橋勇市さんをお迎えして、「夢をあきらめない」をテーマに講演をしていただきました。小学校時代の「休み時間に走るのが自分一人になっても毎日走り続けた経験」「5年生のときの徒競走で負けてしまった悔しさをバネに毎日練習して6年生のときに1位になった経験」が、マラソンを始めるきっかけになり、さらにはパラリンピックでの金メダルにつながっていくという子供たちが自分の将来の夢について考えるうえで大変参考になるお話でした。また、「リオパラリンピックに出られなかったことの悔しさバネに次のパラリンピックに向けて練習している。」とその後も夢を追い続けているお話は、子供たちだけでなくその場にいた大人の心を打つものでした。

長い間、なわとび世界チャンピオンでギネス世界記録保持者だった鈴木勝己さんは、小学校1年生の頃は体が弱く、病気がちだったそうです。先生に勧められて始めた「なわとび」ですが、もちろん最初は全く跳べませんでした。少しずつ練習を重ねて、2年生になったときに二重跳びで203回跳び続け、学校の「なわとび大会」で優勝しました。それが自信となり、「なわとび」に夢中になったそうです。鈴木さんが初めてギネス世界記録を破ったのは37歳のときです。鈴木さんがもっていた当時の二重跳びの世界記録は10133回です。その他にも鈴木さんは、いくつもの世界記録をもっていました。その中の時間跳びの記録は「9時間46分1秒」です。この世界記録は、昭和55年に打ち立てられた記録ですが、その後何十年も破られませんでした。手の豆がつぶれ、足の爪がはがれ、痛みとつらさに耐えてつかんだものです。鈴木勝己さんは、70歳を超えても新たな記録に挑戦していたそうです。

このように「小さなことでもたゆまず努力し続けていけば、やがては大きなことを達成できる。」「物事を成し遂げるまで諦めずに努力し続けることが一つの力である。」という「継続は力なり」を実現できるように子供たちには振り返りの大切さについて話をしています。

東小学校の子供たちにも小さな努力の積み重ねを大切にして、自分の可能性を信じて夢の実現に向けて取り組んでいけるような子供になってほしいと願っています。そのために教職員一同、子供たちの可能性を最大限に引き出せるように努力と工夫をし、教育活動に取り組んでいきたいと思ひます。御協力をお願いします。

ふれあい月間について

6月は東京都教育委員会が定めた『ふれあい月間』です。ふれあい月間は、いじめや自殺、犯罪・非行等の問題行動、不登校等の未然防止やその対応に向けた取組の充実を図るため、各学校が現状や取組の効果等を把握すること、そして、未然防止や早期発見・早期対応につながる具体的な取組を実施することを目的としたものです。

本校でも友達とのよりよい関わり方、挨拶や言葉遣いに関する指導を重点的に行います。また、子供たちの様子やアンケートの結果を基に、学校全体でいじめの未然防止・早期発見・早期解決に努めてまいります。お子様のことで何か心配なことがありましたら、「こんなことで…」と思わずに、ぜひ学校へ御相談ください。